



汐見の和

横浜市立汐見台小学校
令和3年10月25日
学校だより 11月号

【学校教育目標】人やものに豊かにかかわり、ともに未来を創る子
電話 045-761-1561 FAX 045-754-6409
ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/shiomidai>



実りの秋、さらなる大きな成長を

副校長 中西建介

空は青く澄み、野山は赤や黄色に彩られ、自然の美しさを一層感じる季節になりました。通常登校になってから約1か月が経とうとしていますが、学校では学校生活のリズムを取り戻して笑顔で過ごす子どもたちの姿が見られます。

この季節は物事に集中して取り組むことに適した時期で、芸術の秋、食欲の秋、スポーツの秋など、様々な秋があります。その中の一つに“読書の秋”があります。中国・唐代の文人である韓愈が残した詩の中に「秋の夜は涼しさが気持ちよく、あかり（灯光）で読書するにはもってこい」という意味を表す「灯火親しむべき」という一節があり、この言葉が“読書の秋”の由来になっているそうです。学校でもワールドカフェ形式で読書会をする姿や、図書館に新しく入った読み物に親しむ姿が見られるなど、読書の秋を満喫しているようです。

さて、読書が子どもたちの成長に効果的であるということを疑う人はいないと思いますが、一体どのようなよさがあるのでしょうか。一つには、読書をする中で読み手が登場人物になりきり、自身を投影しながら読み進めていくことで、登場人物の気持ちに共感したり、まるで同じことを自分が体験したかのような感覚を得たりすることができることです。この“主人公になりかわる”ことは、子どもが他者や自己を認識する上でとても大切なことだといわれています。その結果として豊かな感受性や想像力を育むことにつながります。二つには、読書することによって自分とは異なる考え方や気持ち、生き方、教訓、知らなかった知識など、様々な情報を取り入れることができることです。その結果として視野が広がり、他人がどのように考えたり感じたりしているのかに眼を向けたり、他者の考えを通して自分の考えを広め深めたりすることができるようになるのです。その他にも、たくさんの言葉に触れることで語彙力が増える、本と真剣に向かい合うことで集中力が高まるなど、様々なよさがあるといわれています。

本校では、児童自らが読書をしたり、教職員等が行った読み聞かせ動画を視聴したりする読書タイムを年間を通して行い、児童が読書に親しむ機会を設けています。また、図書委員会の児童が各学級の読書タイムに自分たちが作成した読み聞かせ動画を視聴する取組を企画し進めるなど、児童が主体となって読書に親しむ活動も行っています。その他にも「おはなし同好会」や「飾りボランティア」の皆様にご協力いただきながら、児童が読書に親しむ環境づくりにも努めています。読書の秋を機会に、たくさんの本と出会い心豊かに育ってほしいと願っております。

今月は、磯子区小学校児童音楽会、久良岐公園遠足や野島宿泊体験学習等の学年行事、ペア活動を中心とした異学年交流の活動が予定されています。そして、創立55周年を全校児童でお祝いする汐小55周年プロジェクトの活動が本格的に進められます。これまでの学習で学んだことを生かし、友達と共に高め合う中で、子ども一人ひとりがさらに大きく成長できるよう全教職員で取り組んでまいります。運動会に代わる学びを体験することをねらいとした汐小スポーツフェスティバルが15日から始まります。保護者の皆様も、お時間がありましたら、体を動かすことに心地よさを感じながら楽しく学習しているお子様の様子をご覧ください。

